

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課  
 担当課長名：荒瀬 美和

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道 宇治木屋線 3工区 (犬打峠)		事業区分	地方道	事業主体	京都府
起終点	自：京都府綴喜郡宇治田原町南 至：京都府相楽郡和束町別所			延長	4.0 km	
事業概要						
宇治木屋線は、宇治市を起点に、宇治田原町を經由し、和束町木屋に至る道路であり、新名神構想区道路の宇治田原IC（仮称）へアクセスする、地域の南北軸を形成する路線。幅員狭小かつ線形不良の区間をバイパス整備することにより、地域産業の振興や交流人口の拡大を図る。						
H29年度事業化		都市計画決定		H30年度用地着手		R元年度工事着手
全体事業費	約100億円		事業進捗率	約13%	供用済延長	— km
計画交通量	4,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 75/88億円 [事業費：73/85億円 維持管理費：2.8/2.8億円]	総便益 (残事業)/(事業全体) 118/118億円 [走行時間短縮便益：110/110億円 走行経費減少便益：4.9/4.9億円 交通事故減少便益：2.6/2.6億円]	基準年 令和2年		
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.5 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.4~1.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.4~1.7 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.4 (事業期間 ±20%) 事業期間：B/C=1.5~1.6 (事業期間 ±20%)						
事業の効果等						
①走行性の向上・交通の安全確保 ・バイパス整備により、線形及び道路幅員の改良等を実施し、安全で快適な道路交通を確保する。 ②高速道路へのアクセスの向上 ・新名神高速道路へのアクセス機能の向上により、地域産業の振興や観光客の呼び込み等に寄与する。 ③異常気象時等における道路の信頼性向上 ・広域防災拠点等へのアクセス機能を確保し、地域の防災力強化に寄与する。 ④地域産業の発展を支援 ・山城中部地域の宇治田原町と南部地域の和束町は、ともに特産品である「宇治茶」の主産地であり、速達性・定時制が向上し、地域産業の発展を支援する。						
関係する地方公共団体等の意見						
・周辺住民と円滑な合意形成を図り、用地買収が早期に完了している ・「京都府夢実現プラン 山城地域振興計画」（R元年10月策定）の主要事業に位置付けられている						
事業評価監視委員会の意見						
事業継続を妥当と認める。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・現在も道路幅員5.5m以下の区間が全体の8割以上を占めており、地域住民の日常生活における安全かつ円滑な通行に支障が生じており、前回評価時同様、安全で快適な道路交通を確保する必要がある。 ・新名神高速道路整備事業（西日本高速道路（株）施行）が令和5年度の開通を目指し進められているほか、周辺道路網についても予定どおり整備が進んでおり、前回評価時同様、ICアクセス機能を向上する必要がある。 ・和束町と周辺市町を連絡する府道の脆弱性は依然解消されておらず、平成30年7月豪雨では、現道部分で一部路肩決壊も発生するなど、前回評価時同様、安全で災害に強いバイパスを整備する必要性がある。 ・平成29年の「お茶の京都博」をきっかけとして、（一社）京都山城地域振興社（お茶の京都DMO、H29.3設立）等を中心に山城地域一帯での観光振興を図っており、計画どおり地域の活性化が進んでいる。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得率約100%、事業進捗率約13%						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						

トンネル区間に当初想定していなかった脆弱層が確認され、工法の見直しが必要になるなど、事業費が大幅に増加しているものの、新名神高速道路の開通に合わせて事業を推進していく必要がある。

施設の構造や工法の変更等

トンネル掘削残土を他の公共事業に流用しコスト縮減に努める。

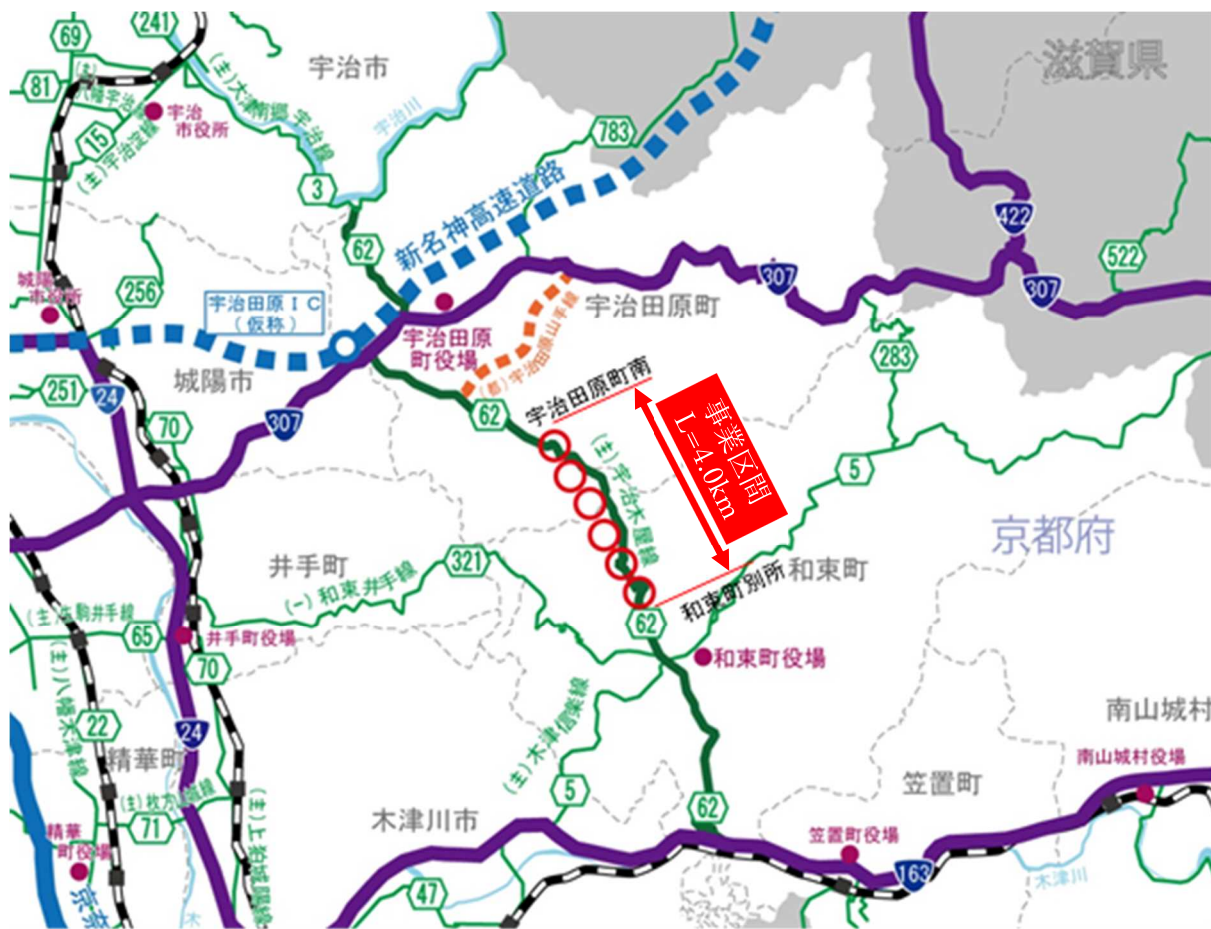
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業着手後、用地取得も順調に進展しており、令和5年度を目標に、新名神高速道路（大津JCT（仮称）～城陽JCT・IC）の整備が進む中、宇治田原IC（仮称）へのアクセスの向上により、整備効果を最大限に発揮させる必要がある。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。